

eco キャンプ～やまぐち SDGs 探検隊～

令和3年11月13日(土)～14日(日)

【目的】

体験型の森林学習を通して、森林の役割や森林と人々との関わりについて理解するとともに、森林と人々の暮らしの持続可能なくみを考え、環境の保全に寄与しようとする温かい心の醸成を図る。

【参加者】小学4年生～6年生 24名

【プログラムの内容】

1日目

- 10:30 入隊式
- 11:00 eco ゲームで隊員と仲良くなろう
- 13:00 徳地の森 SDGs 探検ラリー
- 19:00 森が泣いている！？ 地球の敵を知ろう

2日目

- 9:00 地球を守れ！環境保全活動にチャレンジ
- 13:00 SDGs 探検隊バッジを作ろう
- 15:00 解散式

eco ゲームで隊員と仲良くなろう



初対面の緊張をほぐすために、隊員同士でゲームを行った。はじめはお互いのことを知るゲームを行い、笑顔が出てきたところで、自然に関連する要素を取り入れたゲームを行った。ゲームを楽しみながら緊張をほぐすとともに、自然環境に意識を向け始める様子がみられた。

徳地の森 SDGs 探検ラリー



自然の家周辺の森(徳地の森)のポストに設置されたSDGs17の目標を仲間と見つける探検ラリーを行った。隊員それぞれに役割があり、協力して目標のポストを探し出すことで、学校や学年の枠を越えて仲を深めることができた。また、SDGs17の目標には、具体的にどんなものがあるのかについて学んだ。

森が泣いている！？ 地球の敵を知ろう



「コップ1杯の水は、どこからきたのか」についてグループで話し合いながら、森林が私たちの生活や土地の保全に重要な役割を果たしていることについて学んだ。また、「森が泣いている原因」についての話し合いや、SDGsクイズなどを通して、地球がおかれている現状について理解を深めた。翌日の環境保全活動に向け、意欲の高まる姿が見られた。

地球を守れ！環境保全活動にチャレンジ



いきいきエコネットワーク山口の方を講師にお招きし、環境保全活動の一端として竹炭づくりにチャレンジした。竹林の放置が森林環境に悪影響を及ぼしていることや、竹の活用方法などについてレクチャーを受けながら竹炭づくりを行い、循環型の社会の仕組みについて体験を通して学んだ。

SDGs 探検隊バッジを作ろう



自然の家の間伐材を活用して、SDGs ホイールのバッジづくりを行った。SDGs バッジに込められた17の目標を確認するとともに、キャンプをふりかえり「SDGsの達成に向けて、これから自分は何をするか」SDGs My Actionカードに行動目標を書き、発表した。今後の生活や未来について考える姿が見られた。

【参加者の声】

- ・「言葉として知っていたけど、よくわからないことだったSDGsについて、キャンプに参加してよくわかった」
- ・「地球が大変ということを知ったので、これからは自分にできるeco活動をしていきたい」
- ・「SDGsについて詳しいことを知れて、これからは少しでもいいから未来のために役に立ちたいと思った」

【成果】

キャンプに参加して、「満足」は75%「やや満足」は25%であった。キャンプの最後には、SDGsの達成に向けたMy Actionを全員宣言することができた。参加者アンケートにも、SDGsについて学んだことや、これからの行動目標についての記載が多くあり、環境保全への意識の向上が図れたと考える。また、応募が100名を超え、需要の高いキャンプの企画を提供することができた。

【課題】

SDGsに関連した新規開発の活動プログラムであったこともあり、小学4年生～6年生の発達段階に合わせることに苦慮した。特に、SDGsについて体験したり学んだりしたことを、いかに自分事として捉えるかについては、熟慮が必要である。